



社団法人 養生会 月刊発行新聞

かしま

HOT 通信

9月号 Vol.332

令和2年(2020年)9月1日発行

■編集/かしま病院広報企画室
■発行/社団法人養生会〒971-8143
福島県いわき市鹿島町下蔵持字中沢目22-1
tel.0246-58-8010(代) fax.0246-58-8088

ご意見・ご感想は...

上記住所へ郵便、またはE-mailでお送り下さい。
かしま病院広報企画室(江坂 宛)まで
r-esaka@kashima.jpホームページ <http://www.kashima.jp>

かしま病院

検索

スマートフォンをご利用の方は、
QRコードを読み取り、アクセスしてください。
PCサイトと同じ内容がご覧頂けます。1
2

巻頭特集

『システム管理課のご紹介』

糖尿病のおはなし

『インスリンについて -第2回-』

かしま糖尿病サポートチーム

3

コラム ひんがら目(159)

『テレビで見た、なつかしの「栄楽飯店」
50年前の世田谷区羽根木』

呼吸器科 部長 山根 喜男

4

ようこそ家庭医療へ!

リハビリPOST

「第15回かしま病院認定看護師による勉強会」
中止のお知らせ

かしま荘通信

クレジットカード決済に対応しました



令和2年8月5日(水)より、会計時にクレジットカードでのお支払が可能となりました。クレジットカード決済は、金銭受け渡しの接触が減少するため、感染症対策にもなります。詳細は下記の通りです。

ご利用可能なカード



ご利用可能なお支払い・・・医療費、診断書、健診・人間ドック受診料など

お取り扱い場所と時間・・・場所：総合受付、売店前受付

時間：8時30分～17時00分 ※土日・祝日も対応

① 夜間救急等、上記以外の時間はご利用できません

決済方法・・・一括のみお取り扱い

不明な点がございましたら、会計窓口までお尋ねください。

巻頭特集

システム管理課のご紹介



Staff



System Kanri-ka

当院のシステム管理課は2名所属しています。院内のパソコン、電子カルテの管理が主な業務です。院内で開発したシステムの管理やセキュリティ対策にも力を入れています。また、職員メールアドレスの管理やヘルプデスクとして職員からの問い合わせに対応し、院内のITを幅広く支えています。

システム管理課とは?

病院内のネットワークの構築や管理

ネットワークが繋がらないなどの不具合の対応や、ネットワーク設計や構築、古くなった機器の入れ替え作業を行っています。

電子カルテ・オーダーングシステムの管理

当院では、患者さんのカルテを電子化しています。オーダーングシステムとは、電子カルテを通して検査の予約や処方する薬を入力することで、各部署が使用しているシステムに自動的に送信されるシステムです。検査科や薬剤部、リハビリテーション部など、それぞれの部署に対応できるように管理しています。(次項図参照)

かしま病院では「システム管理課」という病院のネットワークやシステムを管理している部署があります。医師や看護師など現場で働く専門職を支えています。各部署において様々なシステムを使用している為、当院にとって欠かせない存在になっています。今回は「システム管理課」の部署紹介です。ぜひ、ご覧ください!



各部署のパソコンの交換や入れ替え時の対応、不具合や故障が発生した際に修理をしています。また、新しいプリンターが届いた際には、セットアップ作業を行っています。

新規のパソコンやプリンターのセットアップ作業と故障時の修理

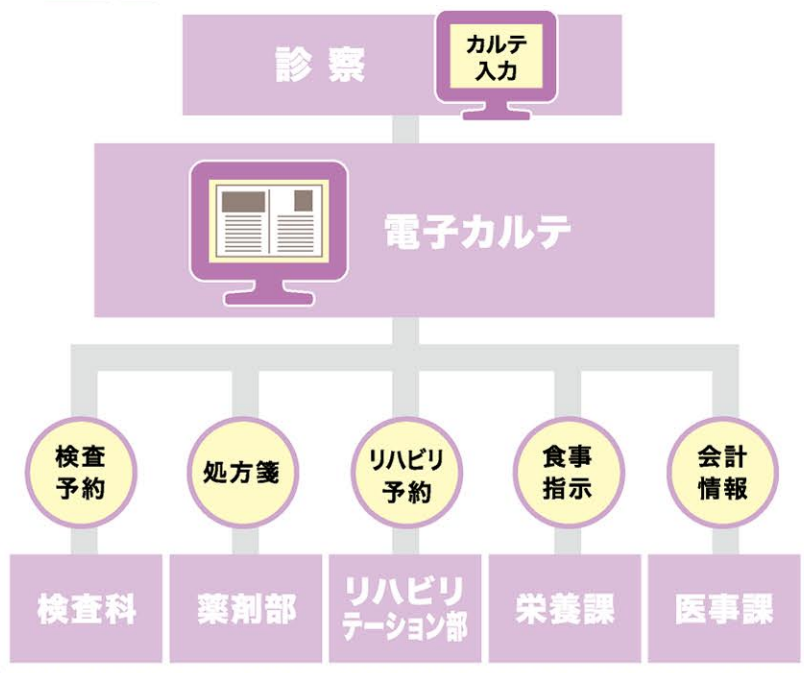
Maintenance



System Kanri-ka



電子カルテ・オーダリングシステム



検査科では、患者さんの検査画像の取り込みを補助するシステムを使用しています。紙で得られた検査画像をパソコンにスキャンすると、患者さんのデータをファイルに簡単に取り込めるシステムです。



画像取り込みシステム

外来・入院・退院患者数
外来診療医師
給食の食数
健診を受けた人数
リハビリ実施人数
救急車の受入件数
検査数
宿直医師

病院・外来日誌作成システム
病院・外来には病院日誌を作成するシステムを利用しています。病院日誌では次の項目を管理します。

院内で使用しているシステムの作成や管理を行っています。職員の業務の手間を少なくするために簡易的なシステム作成し、各部署で使用しています。病院で必要な情報を管理しやすいようにしています。

院内用システムの作成・管理

写真は7月末に行われたオンラインでの「医療安全研修」の様子です。



コロナ禍での感染対策のため、オンラインでの会議や研修会ができるように関係部署と協力し、ネットワークの整備や準備を行いました。

Webでの会議や研修会の設備の準備

人事課では、職員の有休取得日数を把握するために使用しています。「働き方改革」により2019年4月から年5日の年次有給休暇の確実な取得が義務付けられましたが、その日数確認に役立っています。

有給休暇管理システム

医療器材の在庫管理システム
当院が保持している医療器材の在庫の情報を電子カルテのトップページに掲載しています。どの職員でも在庫状況がわかるようになっており、スムーズに機材を使用することが出来ます。

医療器材の在庫管理システム

Recruit

システム管理課では一緒に働く仲間を募集しています。

コロナ禍の影響により、システム管理課の役割が大きくなっています。「頼りになる部署」を更に強化するため、かしま病院では仲間を募集しています。患者さんと直接かわかることはありませんが、陰ながら業務がスムーズに進むようシステム面から他部署を支える縁の下のような仕事です。

興味のある方は、ホームページをご覧ください。か、お電話にてお問い合わせください。

System Kanri-ka

旧システムの入れ替え作業や、職員の作業効率を上げる、使用しやすいシステムの開発を行っています。

今後について

密を避けるための工夫として3つの会場を用意しました。参加人数を分散させ、一部リモートの研修会が行われました。参加する職員の安心感も得られ、例年より参加者数も向上し、オンライン研修の効果が見られました。

糖尿病のおはなし

かしま糖尿病サポートチーム

インスリンについて

第2回

先月号に引き続き、インスリンについてお話します。

どんなインスリン製剤があるの？

インスリン製剤は2つのパターンの分泌をどの程度補うかにより大きく「超速効型」「速効型」「中間型」「持続型」「混合型」「配合溶解」の6つに分けられます

これらの種類から、インスリンの分泌量や血糖値、体調や体質に合わせて製剤を選択し、投与する量を決めていきます。

ご自分がどの作用を持つインスリン製剤を使用しているのか確認し、より良い効果が得られるように使用することが大切です。

DM サポートチーム
薬剤師 後藤 聖加

インスリン製剤の種類	作用のイメージ図	注射のタイミング	特徴	商品名
超速効型インスリン製剤		食事に合わせて注射	インスリンの追加分泌を補う。注射後すぐに効き始め、作用が最も短い。	ノボラピッド ヒューマログ アビドラ
速効型インスリン製剤		食事に合わせて注射	インスリンの追加分泌を補う。注射後30分程度で効き始め、超速効型と比べてゆっくりと効く。	ノボリン ヒューマリン
中間型インスリン製剤		食事のタイミングに関わらず、1日のうち決まった時間に注射	インスリンの基礎分泌を補う。注射後ゆっくりと効き始め、ほぼ一日効果がある。	ノボリン N ヒューマリン N ヒューマログ N
持続型溶解インスリン製剤		食事のタイミングに関わらず、1日のうち決まった時間に注射	インスリンの基礎分泌を補う。ほとんどピークがなく、中間型よりも長く効く。ほぼ一日安定して効果がある。	レベミル ランタス トレスーバ
混合型インスリン製剤		食事に合わせて注射	インスリンの追加分泌と基礎分泌を補う。超速効型や速効型と、中間型インスリン製剤の混合製剤。	ノボラピッド 30 ミックス ヒューマログミックス
配合溶解インスリン製剤		食事に合わせて注射	インスリンの追加分泌と基礎分泌を補う。超速効型と持続型溶解インスリン製剤の配合製剤。	ライソデグ

*出典元「国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 糖尿病情報センター」

テレビで見た、なつかしの「栄楽飯店」 50年前の世田谷区羽根木

コロナ自粛や解除に伴い、東京の繁華街の人は疎になったり密になったりしています。その際には決まって渋谷駅前の広場がテレビに映し出されます。変則的な交差点の一角には大盛堂書店が見えます。東京で暮らしていた二十歳頃にはよく出かけていました。以前は新宿駅東口の広場が東京の象徴でしたが、最近では渋谷に移ったようです。京王電鉄では、新宿駅から高尾山へ京王線が、渋谷駅から吉祥寺へ井の頭線が向かいます。両者の交差点とところが、明治大学と泉校舎のある明大前駅です。

愚生は、50年前東京都世田谷区羽根木に住んでいました。井の頭線では新代田駅、京王線では代田橋駅が近く、明大前駅を頂点とする二つの私鉄に挟まれた三角地帯です。



クロレラなどを販売する雑貨屋の2階に3年間間借りしていました。買い物客を見かけたことは一度もありません。西日が照りつける3畳間。晴れた日曜の朝は、汲みあげた井戸水で洗濯です。石鹸を衣類に擦り付け、洗濯板で手揉みの筋肉労働でした。路地の物干し竿に吊るした後は、近所の食堂で昼食です。繁く通ったのが栄楽飯店。貧乏学生が選ぶのは、チャーハン、カレーライス、タンメンのどれか一つ。これらを越えた注文は記憶にありません。空腹の若者にはどれも最高の美味しさでした。50年たっても忘れられない味です。いつかまた行ってみたいと思っていました。上京の折に何度か店の前を通ったことはありましたがいつも準備中の看板でした。

先日お盆休みにテレビを観ていましたら、エイラクハンテンと聞こえてきました。そして

て、代田橋という懐かしい駅名。「町中華で飲ろうぜ」という東京近郊のラーメン店を食べ歩く番組です。急いでビデオ録画をセットしました。

深夜の番組です。前半は芸人の玉ちゃんこと玉袋筋太郎さんがレポートしますが、後半は伝道師と呼ばれる女優さんが食べ歩きします。その日の後半は、羽根木の2軒の町中華でした。テレビに映る小さな栄楽飯店の外観は50年前と同じでした。しかし、暖簾が裏返しになっていて玄関が開きません。女伝道師はその店を諦め、近くの別の町中華に入りました。

青龍という店が昭和49年開業でした。愚生は昭和47年の春に東京を去って仙台に移りましたのでこの店は知りません。ビールと麻婆豆腐、蟹玉、豚肉の生薑焼きを美味しく味わった後、女優は再び栄楽飯店に向かいました。

幸い開店していました。50年前にあったテーブルはなく、全席カウンターだけの店になっていました。ところが、当時が髭髯とよみがえります。女優は、まずビール、350円の餃子、肉と春雨炒め、最後にラーメン。昭和42年開業です。50年以上続いています。その間、メニュー表を書き換えるのが面倒だったので料金を変えてないとか。丸眼鏡を掛けた77歳の店主は諸説を弄する頑固親父。気になったのは当時店を切り盛りしていた恥じらい気味の若奥さんの姿が見えないこと。他にお客さんがいないこと。店主の「50年は短いようで長い。色々なことがあった」という言葉に重たいものを感じました。パブル崩壊を経て、商店街はマンション街に変わりました。

コロナの自粛が解かれたら、再訪してみたい郷愁を覚えました。

(呼吸器科 部長 山根喜男)

ようこそ

家庭医療へ!

～ いわきに生きる家庭医療への挑戦 ～



家庭医療における漢方の家庭医療の実践の場では、標準的な診断・治療に基づく診療マニュアルだけでは対応しきれない、患者さん一人ひとり異なる様々な病気の苦しみが存在します。医師がどんなに手を尽くしても、患者さんを苦しめている症状の原因すら特定できず、西洋医学の限界を感じることもあります。そんな時こそ、患者さんの声に耳を傾け、寄り添い、共に向き合っていくことがとても重要になるのですが、そのための手法の一つに漢方があります。

漢方とは、もともとは中国で生薬を組み合わせて用いて行われていた治療を体系化した経験に基づく医学で、伝統的な診断法によって使用する生薬を選別し調合します。このようにして処方されたものが漢方薬です。

第127回 鬼に金棒、家庭医に漢方

診療部 石井 敦



漢方薬は、日常診療で遭遇する症状の多くに対応することができ、西洋医学的な診断名が確定していなくても、患者さんの症状や状態に応じて用いることができるため、医師が漢方薬を使いこなせると、西洋医学だけでは十分に問題解決ができなかった多くの患者さんに救いの手を差し伸べることができるようになります。

かつて、かしま病院総合診療科で研修し、その後、会津医療センター漢方医学講座で研鑽を積まれた中村光輝先生は、家庭医療も漢方も、検査に頼るのではなく問診と身体診察を重視し、体調不良の原因を体全体から探り、継続的な関わりの中で体調の変化をとらえて対応していくという共通点があり、家庭医療と漢方は相性抜群だと言います。漢方を身につけた家庭医を「東西二刀流ジェネラリスト」と称し、まさに「鬼に金棒」と表現しています。

かしま病院では、2008年度から家庭医を志す研修医や地域医療実習を行う医学生を受け入れています。このコラムを担当する医師の石井敦は日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医として、研修医・医学生の指導を行っています。



第114回

回復期病棟の取り組み

当院の回復期リハビリ病棟では脳血管疾患や骨折などの疾患の方が入院されて、リハビリを行っています。リハビリは決して楽なものではなく、体に負担がかかってつらいと感じることも少なくありません。

そんな中で当病棟においては新たな試みとして遊びの要素を取り入れた「遊びリテーション」と呼ばれるリハビリを行っています。遊びリテーションとは「遊び」と「リハビリテーション」が合わさった造語で、作業療法士を中心に、患者様同士、時には病棟スタッフが参加して様々なレクリエーションをリハビリの一環として行うというものです。楽しみながら体を動かすことで、身体機能の改善のほか、認知症の予防にも効果があると言われています。レクリエーシ

ョンの内容は、風船バレーや折り紙、カラオケなどがあります。普段は大人しい患者様が躍起になって取り組まれるなど、入院生活の中での患者様の違った一面も見られます。

当院の回復期リハビリ病棟では昨年から年間 365 日リハビリテーションを提供しています。毎日休まず 365日リハビリを行うとなると、患者様にとっては休みがなくつらいと思われるのではないのでしょうか。しかし、休日を挟むことで動きを忘れてしまうことや、連休による筋力低下など、回復期におけるリハビリテーションにとって、休日はマイナスの要素もあるのです。休みが必要か、リハビリが必要か、適切に判断しながら 365 日の切れ目のないリハビリテーションを今後も進めていきます。



理学療法士 長岡 哉

～遊びリテーションの様子～

かしま荘通信

誕生会

8/17(月)



8月17日、利用者様の誕生祝いを行いました。ティータイムを設け副施設長からの花束贈呈の後、今回はゼリーの家のゼリーとコーヒーを召し上がりました。利用者様から、「綺麗でもったいたくなくて食べられない」という声も聞かれておりました。皆様美味しく召し上がられて、笑顔も見られておりました。職員と利用者様が談笑をしながら楽しい時間を過ごされました。

第15回

かしま病院 認定看護師による勉強会

中止のお知らせ

9月16日(水)に予定しておりました「第15回 かしま病院 認定看護師による勉強会」は、諸事情により中止となりました。

参加をご検討されていた皆さまには、大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

